中長期計画（第３期）におけるプロジェクトマネジメント方針について

令和６年１２月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構

AMED では、発足当初からプロジェクトマネジメントとして、統合プロジェクトを PD が、事業等を PS と PO が協力して管理し、また、研究開発課題に対するピア・レビューとして各事業の事前・中間・事後評価を評価委員が実施してきました。加えて、中長期計画（第２期）からは、PD と連携を図りつつ疾患領域ごとに DC がマネジメントを実施しています。

令和７年度から開始する中長期計画（第３期）は、現在、政府にて検討されている医療分野研究開発推進計画（第３期）本文（案）を基とすることとなり、この推進計画では「モダリティ等を軸とする統合プロジェクトをベースに、社会の要請や情勢の変化に対応して再編」とされ、PD・PS・PO はプロジェクトマネジメント機能を果たす、DC は疾患領域別のマネジメントを実施するとされ、大半の事業が競争的研究費制度に属するものであることからピア・レビューを行う評価委員により実施することとなると考えています。

現在、PD・PS・PO、DC は約４６０名、評価委員は約１４００名（いずれも同職の重複者を除く実数ベース）を委嘱していますが、第３期を迎えるに当たり、新たな研究開発の方向性との合致など、プロジェクトマネジメントやピア・レビュー、研究開発領域管理として適切な構成／体制にあるかを点検、万全の体制を構築することが必要です。

PD・PS・PO、DC 及び評価委員に期待することの一つには、経験と知識に基づくマネジメント力や評価力がありますが、一方で、科学技術の進歩は近年加速度的に速くなっており、プレーヤーである研究者が最新の情報に基づいて研究開発を遂行できることも大事な視点であると考えています。また、中堅層以上の若い研究者にとっても、早期に PS・PO という立場で研究コミュニティのマネージャーとしての経験を積むことや評価委員として様々な分野の研究提案の評価に携わることは、自らの研究者としての能力の涵養・増進になると考えています。研究コミュニティにとっても後任者層の養成につながるため、PS・PO 及び評価委員の年齢構成も見直しが必要であると考えます。

具体的には、現在は PS・PO、DC 及び評価委員として７０歳から８０歳の専門家も数多く活躍されていますが、中長期計画（第３期）の間に、年齢構成をより若年にシフトさせ、原則、新規委嘱を６５歳以下に、継続委嘱を７０歳以下にするなど、年齢構成を見直してまいります。

※PD：プログラムディレクター
※PS：プログラムスーパーバイザー
※PO：プログラムオフィサー
※DC：疾患領域コーディネーター